

再びその人らしい生活に

ふれあい ひろば

2023年 春号 Vol.104



愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 院長 就任のご挨拶
- 2面 【連載】セラピストだより⑭ / 就任のご挨拶
- 3面 地域との連携の中で⑩「グループホーム高槻あいわ」のご紹介
- 4面 患者さまだより⑩ / 連載 高槻在宅サービスセンターだより

院長就任あいさつ

愛仁会リハビリテーション病院
院長 越智 文雄

4月1日に愛仁会リハビリテーション病院長に就任した越智です。

私は3年前に愛仁会リハビリテーション病院に奉職し、学術支援室長として研究の支援を行うとともに、診療では回復期リハビリテーション病棟の入院患者の診療、通院リハビリテーション、装具外来、ボツリヌス治療外来、診断書外来、嚥下外来などの各種外来を担当してきました。

昨年からは副院長も務めていましたが、この度吉田前院長の後任として院長を拝命いたしました。浅学菲才の身ではありますが、これまでの愛仁会リハビリテーション病院の運営方針を引き継いで、患者様のために診療を行ってまいりたいと思います。

当院は「再びその人らしい生活に」を病院全体の合言葉に、質の高いリハビリテーション医療に取り組んできました。回復期リハビリテーション病床では、脳卒中や骨折の患者様の機能回復、日常生活動作の自立を目指したリハビリテーションを行っています。

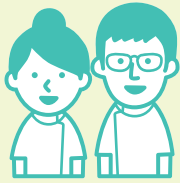
障害者病床では地域の重症心身障害児や脊髄損傷、神経難病など障害をお持ちの患者様の入院加療を行っています。入院でのリハビリテーションだけでなく、退院後も質の高い生活を送っていただけるよう、地域の先生方と連携しながら、各種専門外来や訪問リハビリテーションで患者様の退院後のフォローアップを行ってきました。



しかし医療保険が適応されるリハビリテーション期間には制限があり、介護保険によるリハビリテーションはその内容や頻度が不十分と感じられている患者様もいます。

そのような患者様に切れ目のないリハビリテーションを提供するため、本年5月から公的保険外のリハビリ施設「アールリハビリステーション」を当院1階に開設いたします。

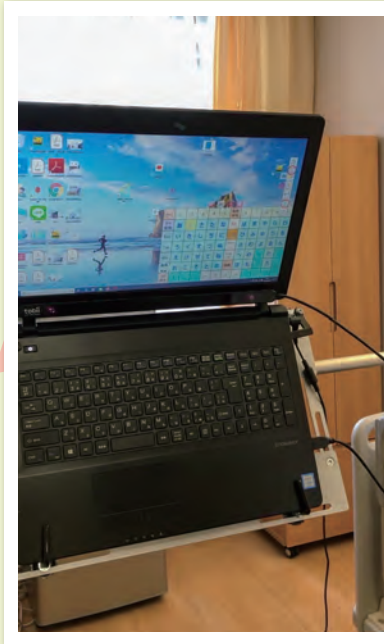
今後も地域との連携を密にして、回復期から生活期まで継続したリハビリテーションを提供することで、皆様に信頼される地域リハビリテーションの要となる病院を目指してまいりますので、よろしく願いいたします。



脊髄損傷の患者様のリハビリテーション

作業療法科 大西 祥平

セラピストだより
VOL.14

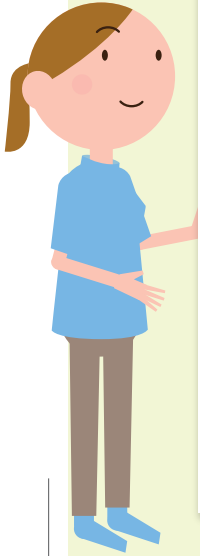


当院に入院される脊髄損傷の患者様は増加している傾向にあります。年齢だけでなく生活スタイルも様々な患者様に合わせたリハビリテーションの提供が必要です。脊髄損傷の患者様のリハビリテーションの流れとして残存機能や能力を最大限活用しながら生活自立と一緒に練習し獲得してもらいます。

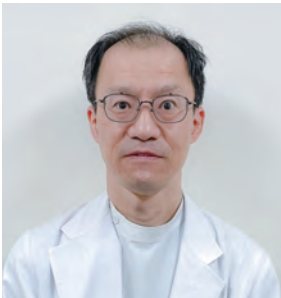
退院の際には生活場面の環境調整が必要なのですが、最近はAI機器の発展がめざましく、TVやエアコン、電話など電子機器の機能は様々なデバイスを使って操作できるようになっており、以前と比べると特殊スイッチとの接続は簡単にできるようになっているものもあります。当院の作業療法科ではそれらを使って退院前に練習や体験をすることができます。

特殊スイッチの一種としては視線入力でのPC操作やスマートスピーカーなど音声で操作するスイッチもあります。退院後も使用するスイッチ関連の機器が退院前に試せるという事は患者様の退院後の生活の満足度に大きな影響を与えます。

また当院のチーム医療には「脊髄損傷チーム」があり、もちろん作業療法士も参加しています。チームからの助言や評価なども意見交換しながら時代の流れに合わせた患者様の新しいニーズにも応えられるように、日々準備をしています。



■ ■ ■ ■ 就任のご挨拶 ■ ■ ■ ■



副院長 福田 和浩

内科医・神経内科医としての臨床経験を経て、当院へ入職以降は脳神経疾患を中心として主に病棟のリハビリテーション業務に携わってまいりました。

この度、副院長に就任いたしました。

当病院の「再びその人らしい生活に」という理念を、多くの職種で構成されたチーム内で共有して、患者様ができてることがひとつでも多く増えて、当院でリハビリテーションができて良かったと想っていただけるようなチーム作りに貢献できればと考えております。

今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



地域医療部部長兼高槻在宅サービスセンター長 兼 副院長 森田 真由美

この度、地域医療部部長兼高槻在宅サービスセンター長 兼 副院長を拝命しました、看護部長の森田 真由美でございます。

私は、看護部長としては4年目となりますが、これまでの3年間は、新型コロナウイルス感染症の対応により、地域の皆様との交流もままありませんでした。

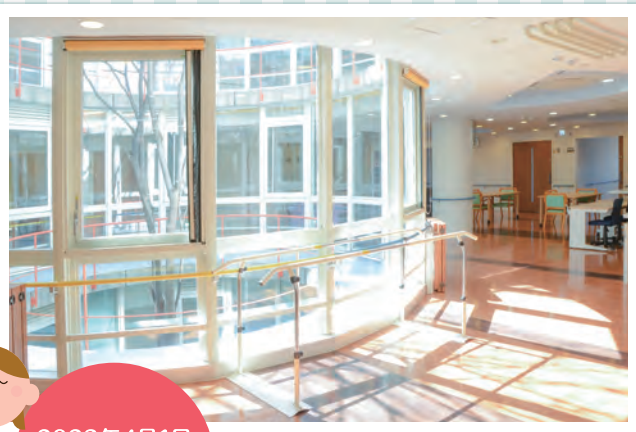
5月には新型コロナウイルス感染症が5類となりますし、今後は、地域の皆様との連携を密にとりながら、患者様・ご家族様に切れ目のない安全で安心のケアに、尽力してまいりたいと考えております。どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護部 副看護部長 大内 美穂

この度、副看護部長に就任しました大内美穂と申します。

リハビリテーション病院の理念である「再びその人らしい生活に」に感銘を受け、いつかはこの病院で働けることを願っていました。多職種チームが一丸となって、機能回復はもちろんのこと、地域との連携を図りながら、患者様が安心して生活ができるようにしていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

2023年4月1日
OPEN

「グループホーム高槻あいわ」がオープン

社会福祉法人愛和会 ケアハウスますみ 中西 慶人

いよいよ2023年4月1日に社会福祉法人愛和会「グループホーム高槻あいわ」がオープンします。場所は高槻市北部圏域の西之川原地区、現「ケアハウスますみ」（4月1日から「ケアハウス高槻あいわ」に名称変更）の2階となります。西之川原地区は自然豊かな地域で、施設の近くには摂津峡・桜公園、周りは田畑も多く、四季の移り変わりを肌で感じることができる環境に恵まれています。

グループホーム高槻あいわのサービス種別は、地域密着型認知症対応型共同生活介護で高槻市に在住の認知症症状のあるご高齢者が共に生活を送る場となっており、9名1ユニットで1フロアに2ユニットの定員18名となっています。ユニット名は職員から募集し、愛和会に因んで「愛（あい）ユニット」「和（なごみ）ユニット」と決定しました。

施設は「個別の暮らし」を主体に生活できるトイレ付個室となっており、ベッド、単筒、洗面台を完備しています。また、フロア中央には大きな吹き抜けがあり、高槻の木「けや木」が植わっており、緑を含んだ柔らかい光がふんだんにフロアへと注ぎこみます。

グループホーム高槻あいわのフロアは、旧しんあいクリ

地域密着型
認知症対応型共同生活介護

グループホーム 高槻あいわ



〒569-1035 大阪府高槻市西之川原2丁目46番3号

TEL.072-668-5000

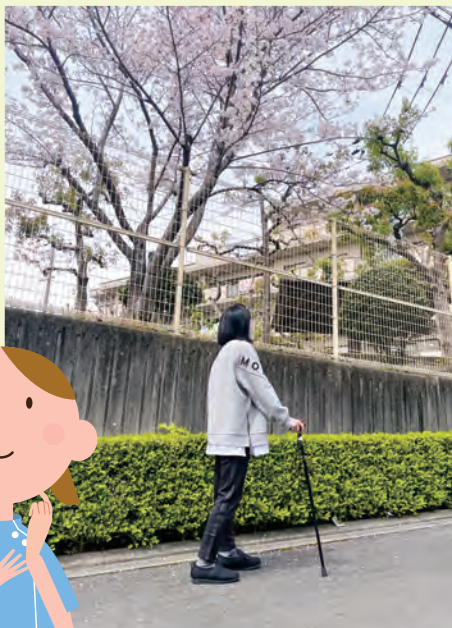
ニック有床診療所跡で、主な改修工事は各ユニットに3方向介助のできる浴槽の設置が必須であり、様々な身体機能のご高齢者に合わせて入浴を提供できる最新のユニットバスを取り入れました。また、脱衣場には入浴後にご自身で鏡を見ながら身なりを整えていただけるように整容台を備え付けました。

日々の生活の中に、体操や脳トレ、制作活動や趣味嗜好に合った活動、調理・後片付けなど職員と共に行える活動を多く取り入れます。また、お散歩やお出かけといった外出レクリエーションや家族と一緒にできる活動等にも力を入れ、家族と職員が顔の見える関係を築き安心して利用いただけるように工夫していきます。

入居者の健康管理は、看護師の配置と愛仁会しんあいクリニックの訪問診療と連携した24時間体制が整っており、安心して利用いただける大きな強みの1つです。

2023年3月5日には、グループホーム高槻あいわの内覧会を開催し、内藤嘉之理事長をはじめ、法人の理事・評議員のみなさま、多くの愛仁会グループのみなさまにご出席いただきました。これから4月1日に向けて最終の準備を進めます。愛和会高槻地区では、健全な施設運営と地域の方々と共に歩める地域に根付いた施設づくりを目指します。今後ともご支援のほど、よろしく申し上げます。





S様は脳梗塞治療後のリハビリのため、2022年3月中旬より当院へ転院されました。積極的にリハビリに取り組み、ご自宅の環境を整えて、8月にご自宅へ退院されました。

現在は、作業療法と理学療法の訪問リハビリを利用されています。週2回の訪問リハビリだけでなく、腕の上げ下ろしや脳トレなど自主練を毎日行うなど積極的に取り組み、買い物などにもご家族と一緒に出かけ、なるべく歩くように心がけているとのことでした。また、お母さまと一緒に料理をするなど、家事にも取り組まれています。

入院中のことについては「リハビリテーション病院にうつってから気持ちも上向きになって、できることも増えて、明るく過ごせました。初めは失った物ばかりを考えて、体が不自由になったことを嫌だなど思っていたけど、前向きになることができました。」とうれしい言葉をいただきました。また、「車の運転の再開」という新しい目標を伺うこともできました。

いつも笑顔で接して下さったS様。これからも体調に気をつけて過ごしていただきたいです。

お忙しい中インタビューを受けていただき、ありがとうございました。



愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより

介護保険は条件がありますが、40歳以上の方がご利用の対象となります。今回は私の担当させて頂いていただいているなかで最も若い49歳、昨年11月に当院を退院され、訪問リハビリ、リハビリデイサービスを利用しながら元の職場への復帰を目指しておられるNさんをご紹介します。

Nさんはシステムエンジニアとして会社の立ち上げ時より活躍されていましたが、令和4年6月の朝にふらつきや呂律困難がみられ救急搬送されました。左被殻出血の診断で急性期病院に入院後、7月15日に当院に転院。11月28日に自宅へもどられました。主な後遺症として右不全麻痺と失語症があります。耳から入る言葉は十分に理解されていますが、考えていることを口から言葉にすることが難しいです。文字盤やキーボードを使つてのコミュニケーションも上手くできませんでした。そんな状況下でも工夫を重ねスマートフォン画像データ等を使って巧みにコミュニケーションに活用されています。

訪問リハビリでは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種が役割を分担し、働かれています。

ケアプランセンター ケーアイ 山本 健太郎

た会社に戻ることで、主治医の指示のもとでリハビリに積極的に取り組みを続けています。会社に戻るには様々な課題が山積みです。安全に歩くこと、言葉の問題、パソコンの使用、そして車の運転。リハビリチームの一員であるご家族も、取って代わりを引き出すような関わり方を日々の生活で心掛けたら、リハビリの現場に立ち会うことで日常生活にリハビリを取り込めるように工夫をされたりと、実に協力的です。Nさんの「自分で車を運転して通勤する」という一つのゴールに向けて、私たちケアマネジャーはご本人、ご家族が望むその人らしい生活にたどり着くための地図を作り、チームのガイド役としての専門職の役割を果たしていきたいと思っております。

